



だいじな、たからもの。
なくしたくない、きもち。
だから、ずっと、ずっと、
いっしょ。

© 2003 MOVEJP / FBJ in association with SMP

ミトン *Mitten*

Directed by **Roman Kachanov**

Written by **Janna Z Vittenzon** Art Direction by **Leonid Shvartsman**

『チェブラーシカ』のロマン・カチャーノフによる、もうひとつの小さなものがたり——

1967年アムシー国際映画祭第一等賞受賞・1968年モスクワ映画祭銀賞受賞・1972年ヒボン国際児童映画祭グランプリ受賞

監督：ロマン・カチャーノフ 脚本：ジャンナ・ヴィッテンゾン 美術：レオニード・シュウルツマン

1967年ノソ連映画/10分/カラー 配給=MOVEJP 配給協力・宣伝=ユーロスペース 併映作品=「レター」(1970年/10分)「ママ」(1972年/10分)



あなたが大切にしているころの‘ミトン’は、あなたの大切な人たちにも見えていますか？
そしてあなたは、あなたにとっていちばん大切な人たちの‘ミトン’が見えていますか？



女の子は子犬が大好き。子犬は女の子のために生まれてきた。でも……。奇跡が起こったある雪の日——。結晶のようにきらきら輝く、せつなくて、美しいものがあり。

ある冬の日。子どもたちが雪の上で犬と遊ぶ様子を、うらやましそうに見つめている、ひとりぼっちの女の子。こころやさしい女の子は、犬が欲しくてたまらないけど、お母さんになかなか言い出せません。女の子はしょぼりとうなだれ、ひとり外に出かけます。雪の上で、赤い手編みのミトンを子犬にみたてて遊んでいると…。すると、どうでしょう。そのミトンが、赤い子犬になったではありませんか…。一晩中抱いていた小さなぬいぐるみ、何度も読み返したおとぎの国の絵本、大好きだったふわふわの毛糸の帽子、ひとりでお留守番の夕方、飼ってもらえなかった小箱に入った捨て犬…。もうなくしてしまった、でも記憶に残る小さな思い出のかけら。女の子の記憶の宝箱には、せつなくて、でも大切な思い出たちがそっと眠っている。そんな小さな記憶の破片をゆっくりと呼び覚ましてくれるのが、この『ミトン』。まるで美しい童話や詩を読むかのような、ちよっぴりせつなくて、でもきらきらと輝く雪の結晶のようなものがあり。

『チェブラーシカ』の監督による最高傑作——

ロマン・カチャーノフ監督作品『ミトン』は、日本でも映画やキャラクターが大ヒットした『チェブラーシカ』のスタッフが結集して作ったロシア・アニメーション映画の傑作。今回同じスタッフによる『レター』『ママ』という2本の短篇と共に、日本でついに見られるようになったのです。この短篇3本に共通するのは、お母さんとひとりっ子の子供たちの心のやりとり。大好きだったり、甘えてみたり、でも淋しかったり、心配だったり。誰もが思い当たる感情の機微が、小さな宇宙のなかでとりかわされます。

詩のよな美しさ。そしてレトロモダンでメランコリック！

『ミトン』のもうひとりの主人公は、ちっちゃな赤いあみぐるみの子犬。デザインしたのは『チェブラーシカ』のレオニード・シュワルツマン。毛糸のぬくもり感がそのまま映画のテイストになっています。ほかにホーロー鍋や、トナカイのキリム、緑のファブリックのひじ掛け椅子のような、映画の中の小道具がとっても新鮮。また手作り感覚いつぱいの、60年代の衣裳の上品さとモダンさも必見。レトロな美しさとかわいらしさが、詩のような映像全篇をさらに味わい深くしています。また『ミトン』の全篇を覆う、どことなくジャック・タチの音楽を想わせる、ガマーリヤによる軽快なジャズ。それはいくぶんメランコリックな、シャインスキによる音楽を配した『レター』や『ママ』の音楽と共に、こころを強くとらえることでしよう。

* 雅姫さん (モデル/デザイナー)

なんでも手に入る時代に、大やものを大事にする気持ち、‘いのち’ということ——。子供も大人も『ミトン』を観て、感じるものがいっぱいあるんじゃないでしょうか。とつてもやさしいお話。

* 東野翠れんさん (モデル)

子供の頃大切にしていたものごと、すごく思い出しました。『ミトン』はこれからも友だちみんなに、「観て観て」って、こころからすすめたい映画です。

* 中野明海さん (ヘア・メイクアーティスト)

淋しさや愛、悲しみとか愛おしさに惹き、いろんな気持ちがおしゃれでかわいい毛糸でぐるぐる巻かれて、ボールになってと真ん中直球ストライク!!!! だって、涙でボールががすんじやったんだもん。

* 車谷浩司さん / AIR (ミュージシャン)

たった10分の中に、今のこんな時代を生きてる中で忘れちゃったものが全部詰まっている。そんな思いがたった10分であつという間に胸に染み渡った、こんな映画初めて。こんなこと初めて。

* 櫻井和寿さん / Mr.Children (ミュージシャン)

女の子が手袋に命を宿らせる想いはそのまま監督が人形たち(そして作品)によせる想いと重なって、僕にとっては何よりそれが切なくて切なくて…。

* 奈良美智さん (美術作家)

子供の頃に夢想した、リズムカルでレトロモダンな物語。初めて観る映像なのに懐かしくてたまらない。

* 及川賢治さん / 100% ORANGE (イラストレーター)

人形というだけで悲しい。犬が飼えない。かあさんが冷たい。友だちに相手にされない。悲しい、悲しい、悲しいばかりだ。でも「悲しいから嫌？」と聞かれたら、「悲しいから好き」と答えてしまう。人形アニメーションの魔術にかかって、もつともつと悲しみを探してしまふ。笑顔の裏側に悲しみをみつけてしまふ。

* 新津保建秀さん (カメラマン)

主人公の女の子の魅力は、『ミツバ子』のささやきのアナトレントや、『地下鉄のザジ』のカトリヌ・ドモンジョに勝るとも劣らない輝きを放っている。

* ユーリー・ノルシュテインさん (アニメーション作家)

最高の作品のひとつであり、最高の監督のひとりである。この作品が多くの方に愛されることを、こころから望んでいます。

ミトン
Mitten



監督：ロマン・カチャーノフ
脚本：ジャンナ・ヴィッテンゾン
美術：レオニード・シュワルツマン
製作：ソユーズムリトフィルムスタジオ
(1967年/ソ連映画/10分/カラー/35mm)

レター
Letter



監督：ロマン・カチャーノフ
脚本：ジャンナ・ヴィッテンゾン
美術：レオニード・シュワルツマン
製作：ソユーズムリトフィルムスタジオ
(1970年/ソ連映画/10分/カラー/35mm)

ママ
Mama



監督：ロマン・カチャーノフ
脚本：セルゲイ・ミハルコフ
美術：レオニード・シュワルツマン
製作：ソユーズムリトフィルムスタジオ
(1972年/ソ連映画/10分/カラー/35mm)

配給=MOVEJP
配給協力・宣伝=ユーロスペース

『ミトン』ホームページ
www.mitten.jp
絵本『ミトン』&フィルムブック『ミトン』
河出書房新社より発売!

B.C STOCKにて
11月下旬より『ミトン』オリジナル商品
発売予定!

12/20(土)よりクリスマス★ロードショー!!

(上映終了日は劇場までお問合せください)

朝 10:10 ~ 終 10:40
夜 9:10 ~ 終 9:40

注意!

年末年始の
休場について

●12/31(水)の夜9:10の回休映
●1/1(祝)は休映日につき全回休映
●1/2(金)の夜9:10の回休映

★本編より上映

特別前売ご鑑賞券好評発売中!!

ポストカードにもなるミトン型!

950円

(当日1000円均)

劇場窓口のみ
かわいい特製バッチが付いています

梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト4F

梅田ガーデンシネマ

06-6440-5977 www.cineplex.co.jp/

●土日・日・水曜日・祝日、年末年始(12/27~1/4)は入場整理券を発行
します。